

掲示板のことは

この戦争 さえ
なかつたら
愛する国の
ために
死ぬより
わしは
愛する人
のために
生きたい！
「あんぱん」より 千尋の言葉

2025. 08

千尋は、やなせたかしさんの弟です。この言葉は、千尋が戦地に向かう前に兄と二人っきりで話をする場面です。千尋は行きたくなかったと思います。もちろん、お兄さんも行かせたくはなかったでしょう。千尋は兄に思いを吐露します。

この戦争がなかったら、わしはもっと法学の道を極めて、腹を空かせた子どもらや、虐げられた女性らを救いたかった。

この戦争がなかったら、いっぺんも優しい言葉を掛けちゃれなかった母さんに親孝行したかった。

この戦争がなかったら、兄貴ともっと何べんも、酒を飲んで語り合いたかった。と自身のやりたかったことを並べます。そして、

この戦争さえなかったら、愛する国のために死ぬより、わしは愛する人のために生きたい！

と叫んだのです。「さえ」が重く響きます。

このような思いを抱えながら戦地に向かった方々が大勢いらっしやっただのろうと想像します。狂気や、同調圧力や、間違った「正義」により、誰もが願うことができたはずの「未来」を生きる道が絶たれてしまいました。

私たちには、未来を思い描くことのできる豊かな想像力が備わっています。その想像力で、笑顔と喜びが溢れる未来の「ものがたり」を紡ぐことができます。大切ないのちと共に生きる未来は、誰にも奪われてはならないと、強く思います。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹